

講義4

# コミュニティワーク

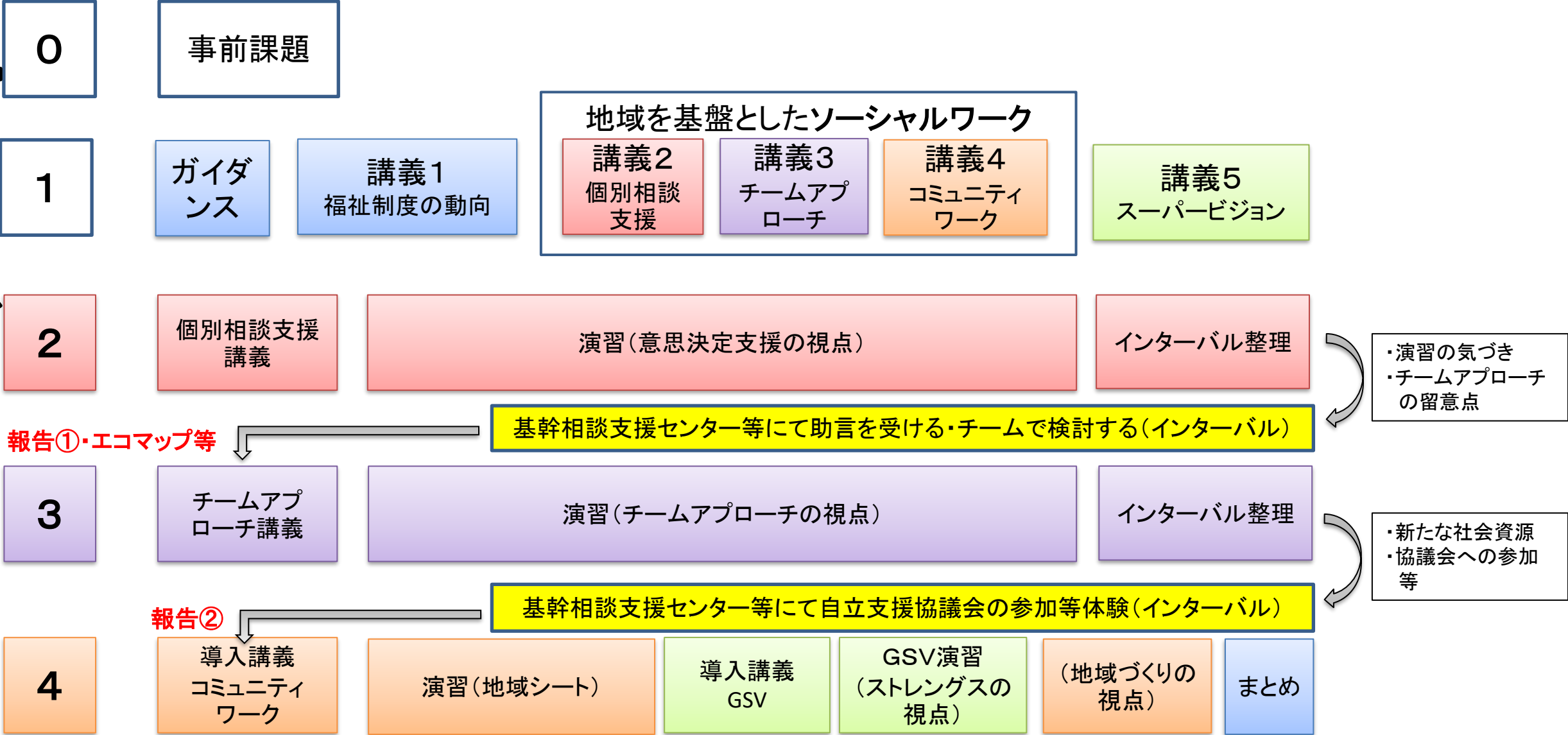
個を支える地域をつくるために

社会福祉法人 半田市社会福祉協議会  
半田市障がい者相談支援センター

副センター長 徳山 勝



# 愛知県の現任研修の構造



# 重層的な相談支援体制

## <第3層>

c. 地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発など

- 総合的・専門的な相談の実施
- 地域の相談支援体制強化の取組
- 地域の相談事業者への専門的な指導助言、人材育成
- 地域の相談機関との連携強化
- 地域移行・地域定着の促進の取組
- 権利擁護・虐待の防止

主な担い手⇒基幹相談支援センター、地域(自立支援)協議会

## <第2層>

b. 一般的な相談支援

- 福祉サービスの利用援助(情報提供、相談等)
- 社会資源を活用するための支援(各種支援施策に関する助言・指導)
- 社会生活力を高めるための支援
- ピアカウンセリング
- 権利擁護のために必要な援助
- 専門機関の紹介

主な担い手⇒市町村相談支援事業

## <第1層>

a. 基本相談支援を基盤とした計画相談支援

- 基本相談支援
- 計画相談支援等
  - ・サービス利用支援
  - ・継続サービス利用支援

主な担い手⇒指定特定相談支援事業

# この講義の獲得目標

- 個別課題だけでなく、地域課題も同時に捉える必要性を理解する。
- 地域とのつながりの必要性や地域資源の活用方法を理解する。
- 自立支援協議会や地域ネットワークを通して地域資源の改善や開発における一連の展開方法について理解する。

# 講義内容

1. なぜ「コミュニティーワーク」(地域づくり)が必要なのか
2. 自立支援協の機能と役割
3. 地域アセスメントとその活用

# 1. なぜ「コミュニティワーク」(地域づくり)が必要なのか

個別支援の背景にある地域課題へ目を向ける



# コミュニティーワークとは

地域を暮らしやすくするために、問題解決のネットワークや活動をつくること。(地域組織化)

住民主体で、まちづくりをしていくための支援。

問題発見、解決、評価の過程を重視。

地域改良を意図した実践を蓄積していく。

(コミュニティデザイン／都市開発)

©原田正樹

## 1-(2)-2 岩間による定義

ジェネラリストソーシャルワーク※を基礎理論とし、地域で展開する総合相談を実践概念とする、個を地域で支える援助と個を支える地域をつくる援助を**一体的に推進すること**を基調とした実践理論の体系である（岩間伸之2011）。

※ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークを統合した援助技術

「市民後見人とは何か 権利擁護の地域福祉の新たな担い手」 社会福祉研究113

# 個別支援と地域支援の一体的展開

個別支援の段階から、同時に地域の状況へ目を向ける

個別支援を進めるときから、同時に地域の状況を見ることが重要です。

## ① よくある誤解

「個々のケースを積み上げれば、いつか地域課題が見えてくる」というだけではありません。

## ② 必要な視点

本人の困りごとを、本人だけの問題として閉じず、地域の仕組みや資源との関係で捉えます。

## ③ 現任者に求められる

個別支援と地域支援を一体的に展開する視点と実践が、現任の相談支援専門員には求められています。

ポイント：本人の困りごとを「地域との関係」で見ることが、地域づくりの出発点になります。

# 並行的ニーズ検討を可能とする技術

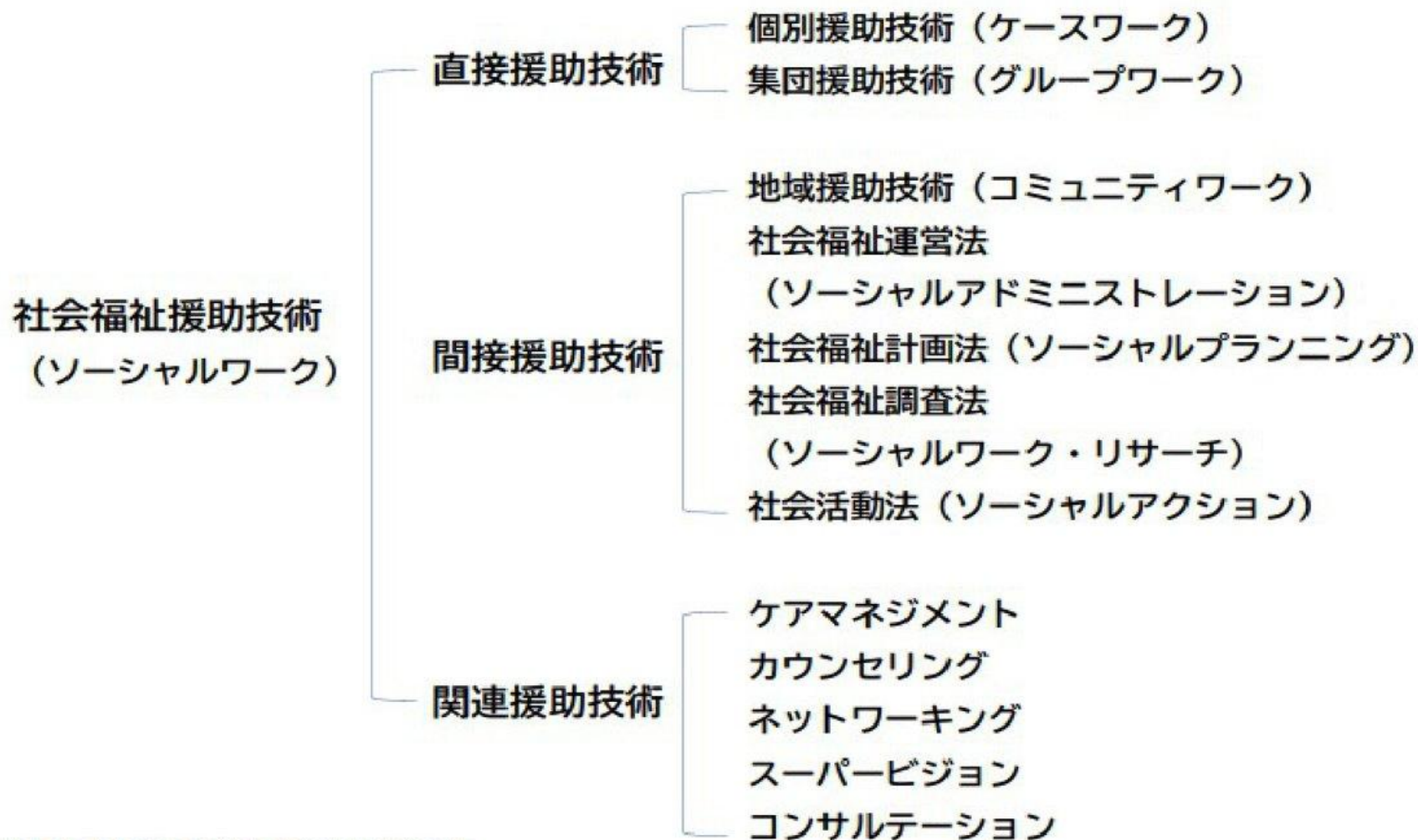
- ① 個別課題と地域課題を関係づける発想  
(個別支援⇔地域支援)

“その人”が抱える課題は、地域の課題かも？

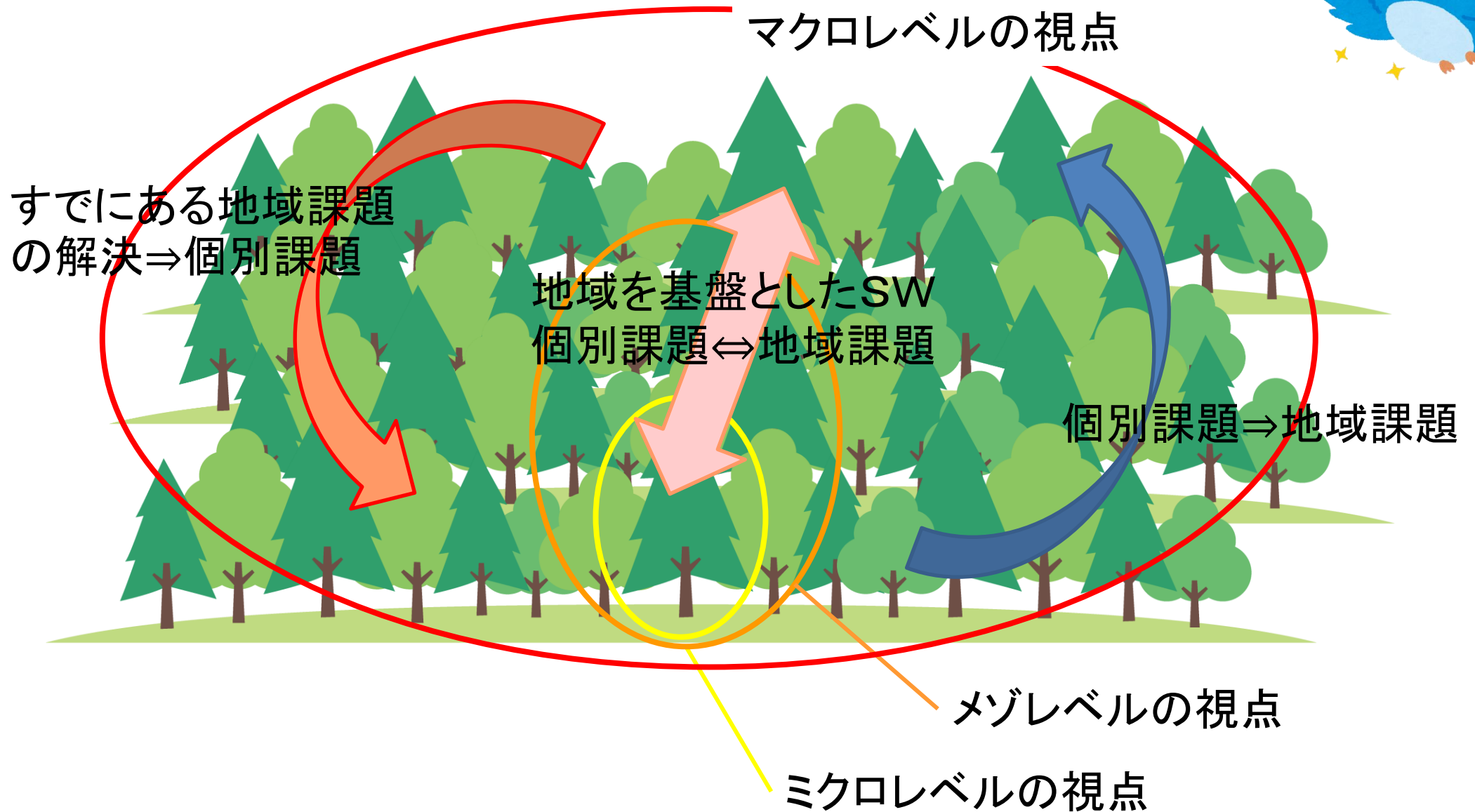
地域の課題として解決すれば、個別課題の解決につながる

- ② 「地域」のアセスメントをする力（地域診断）  
専門機関の状況、地域の地理、歴史、経済、文化、  
組織や人、資源となるものなどを把握する

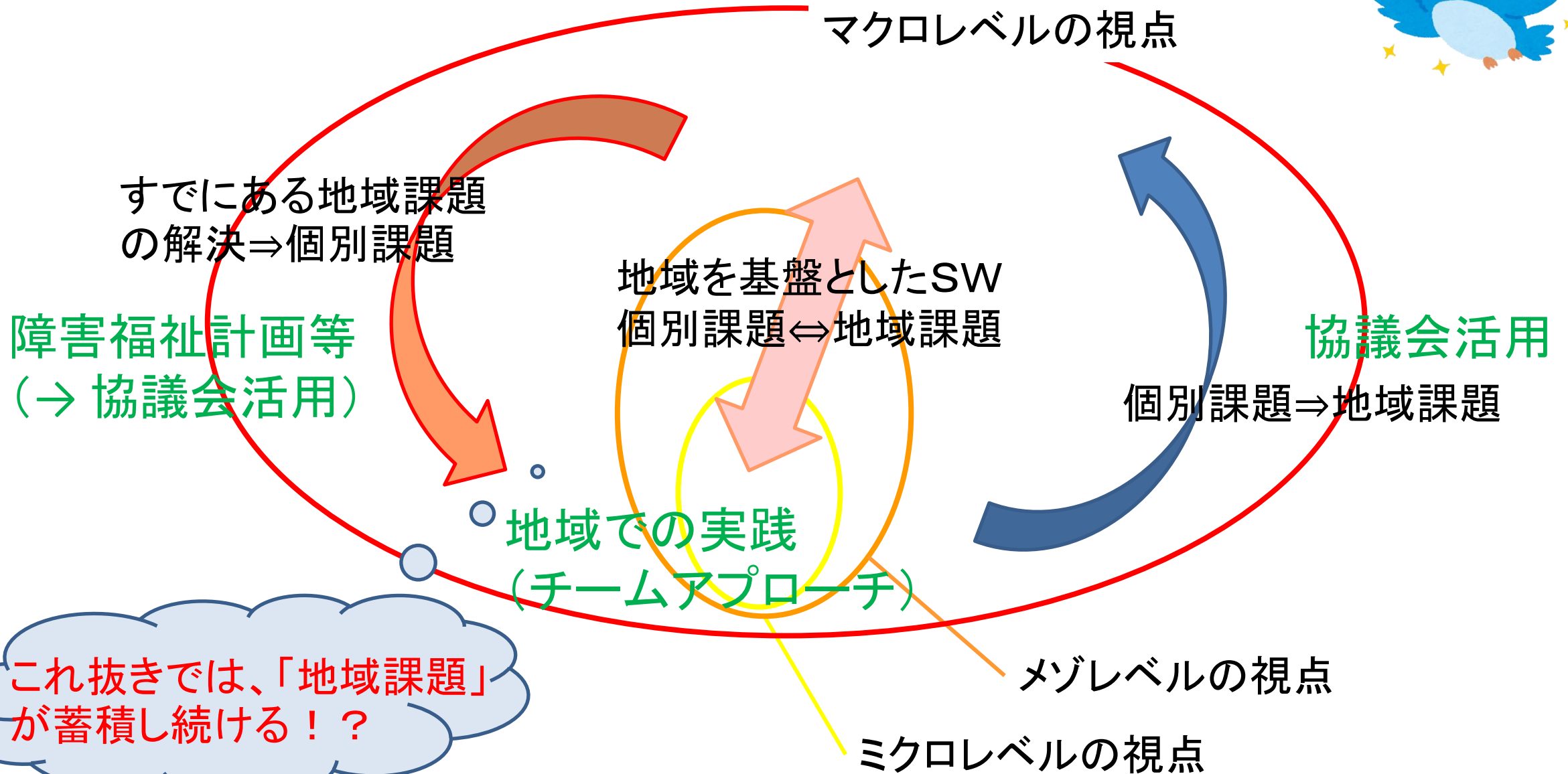
## 1-(1)-3 参考 社会福祉援助技術の体系



# 地域づくりの視点



# 地域づくりの視点

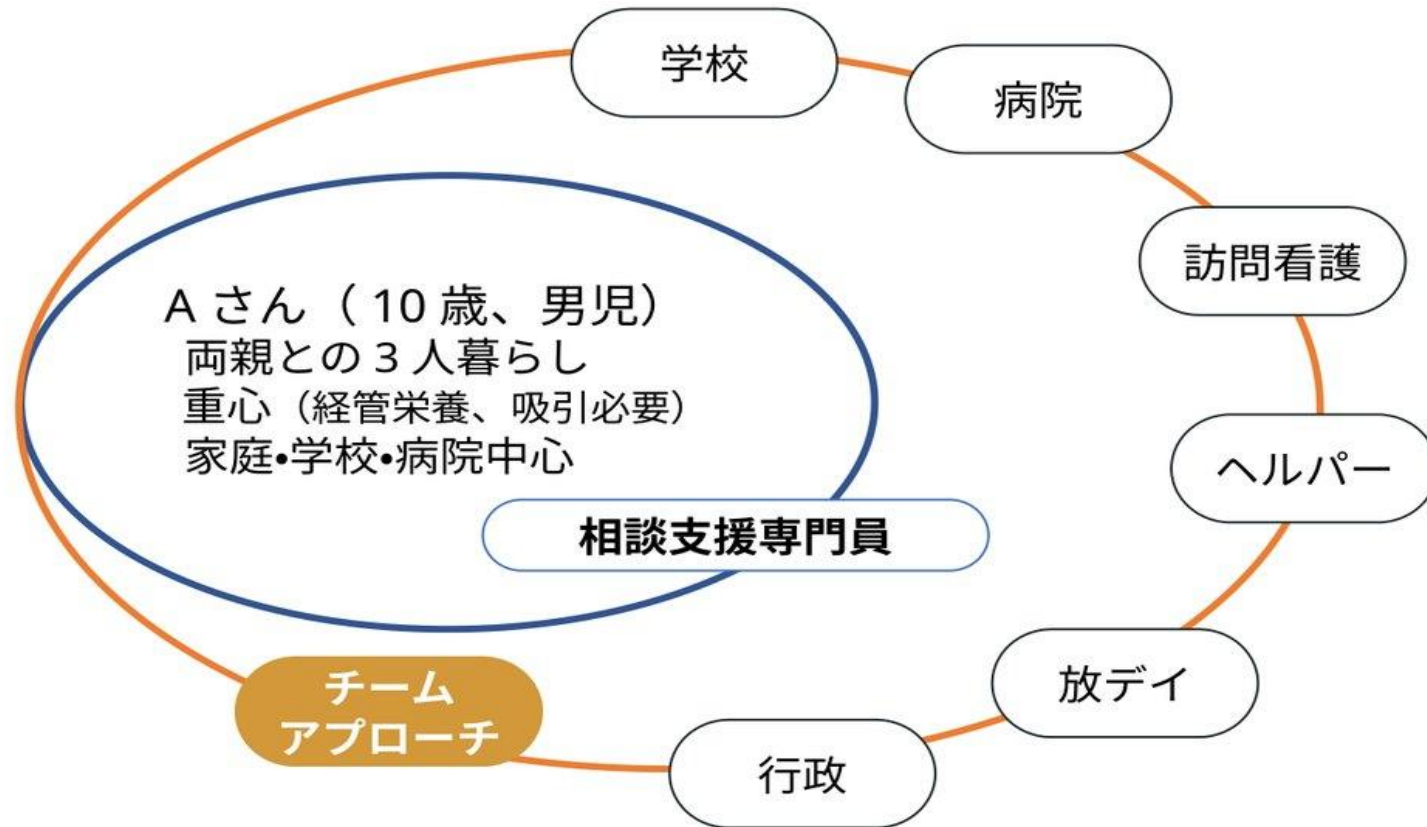


## コミュニティワークに必要な役割を簡単に言い換えると

1. 一人の問題を皆の問題として考える
2. 住民・専門職、あらゆる社会資源を巻き込む
3. 社会資源を開発・改善・活用する
4. 俯瞰的な視点を持つ
5. 専門技術を磨く

# 事例1：医療的ケアの必要な方への支援

主訴（希望、困り感）：Aさんの余暇、社会経験、家族（母）のレスパイト



学校から保護者へ相談支援  
事業所の情報提供

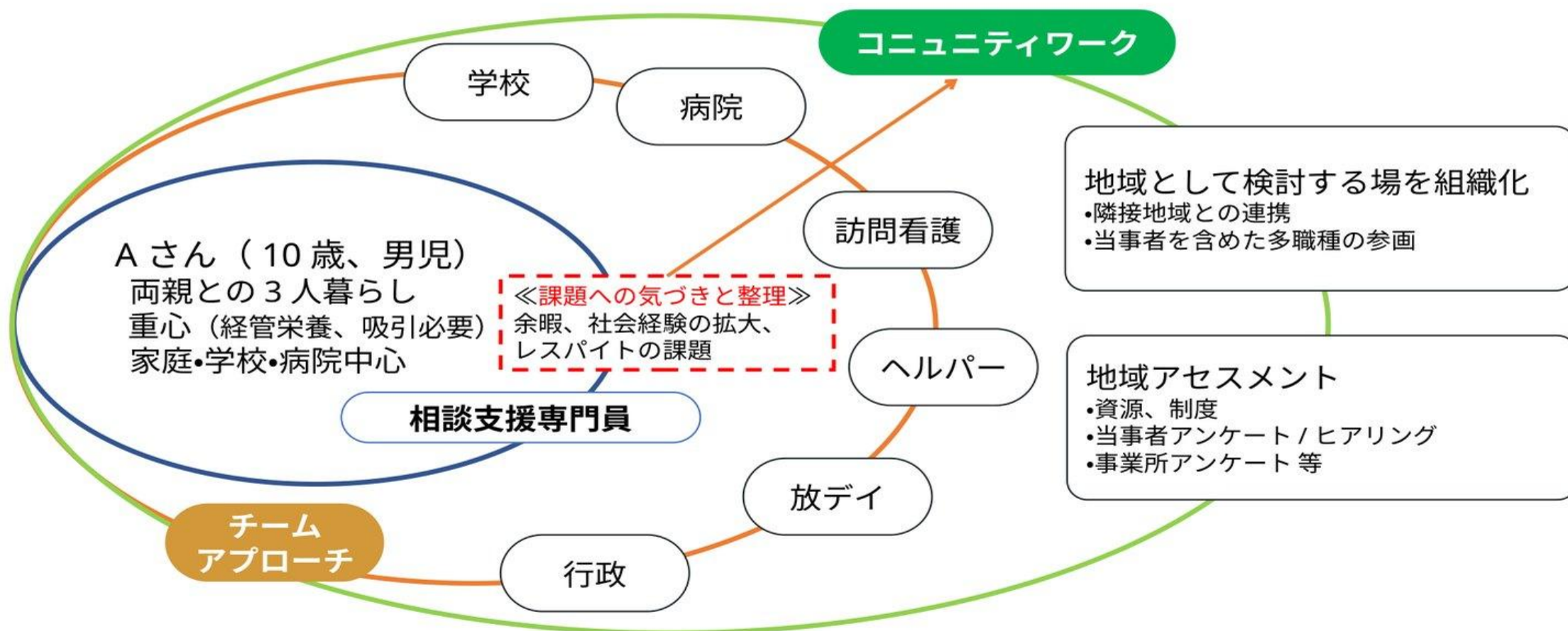
■  
本人、家族、学校、相談が  
中心となり在宅支援の体制  
を作る（チームアプローチ）。

余暇、社会経験の拡大  
家族のレスパイトへの支援  
は社会資源、制度の課題  
から進展しにくい状況。

# 事例1：医療的ケアの必要な方への支援

平成30年度神奈川県現任研修資料 改変

主訴（希望、困り感）：Aさんの余暇、社会参加、家族（母）のレスパイト

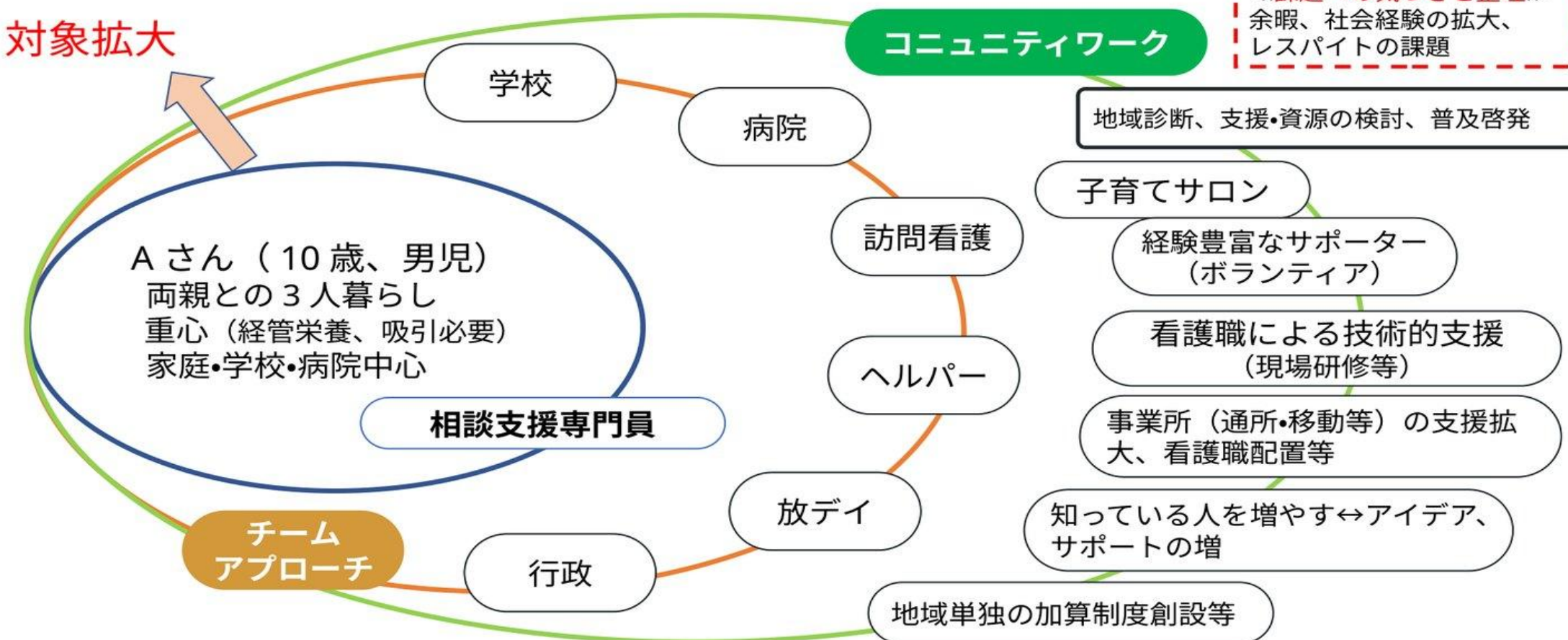


# 事例1：医療的ケアの必要な方への支援

平成30年度神奈川県現任研修資料 改変

主訴（希望、困り感）：Aさんの余暇、社会参加、家族（母）のレスパイト

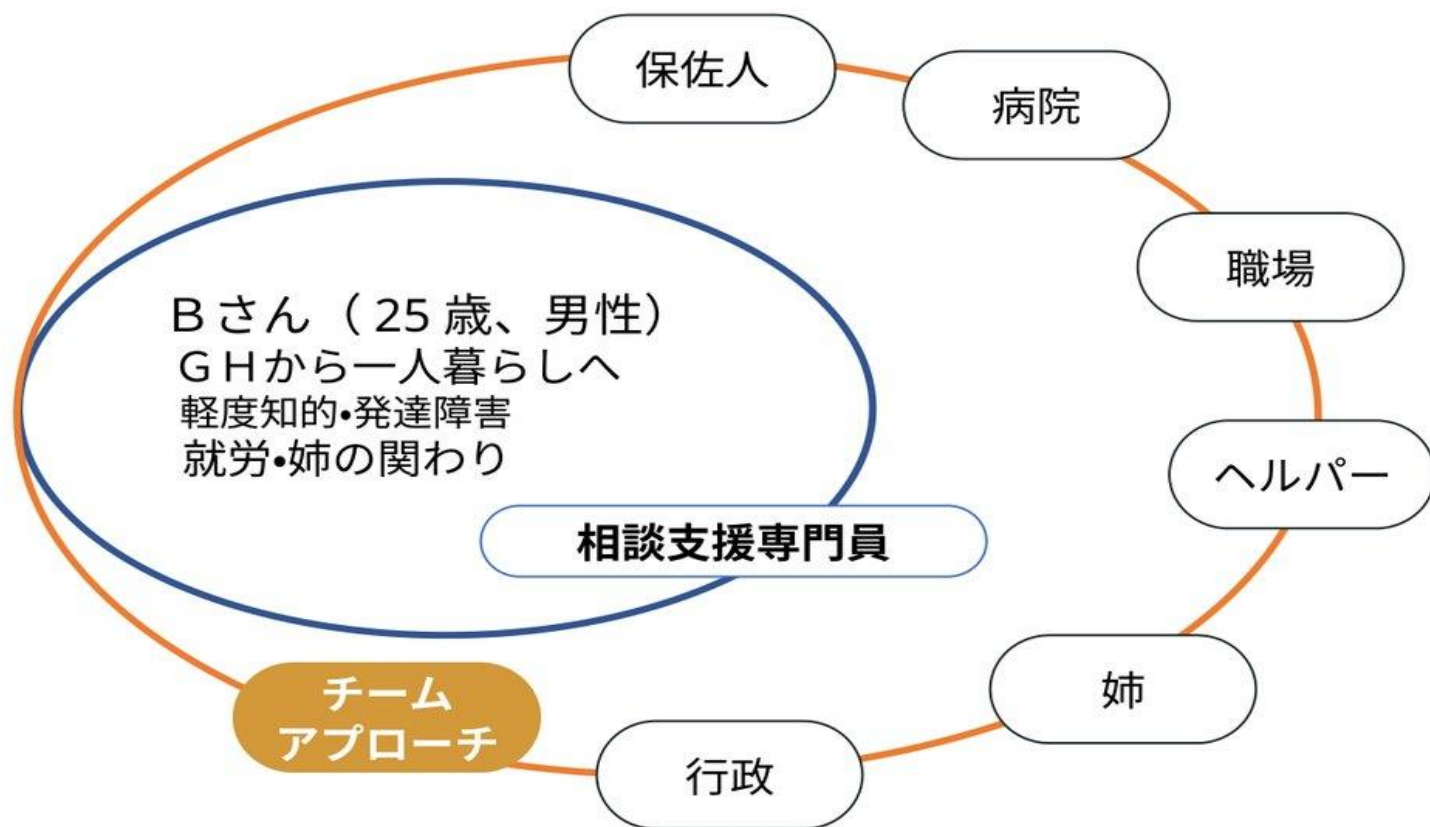
対象拡大



《課題への気づきと整理》  
余暇、社会経験の拡大、レスパイトの課題

## 事例2：一人暮らしを始めた方の余暇支援

主訴（希望、困り感）：休日の過ごし方、対人関係（支援者・交友）



GHを離れて一人暮らしを開始。

本人、GHサビ管、相談が中心となり支援の体制を作る（チームアプローチ）。

本人の望む休日の過ごし方や交友関係について、一緒に考える必要性

# 意思決定支援と地域アセスメントをつなぐ

本人の希望を「サービス利用」に閉じ込めない

## 本人の言葉

休日を楽しく過ごしたい  
／友人や恋人と会いたい  
／役割を持ちたい

## 生活者として見る

家族・友人・店・趣味・  
職場・地域の人との関係  
を見る

## 地域へ広げる

本人の希望を実現できる  
資源・場・関係・仕組み  
を探す

**問い：本人の希望を実現するために、  
「新しいサービス」ではなく「地域の関係性」をどう変えられるか？**

本人を中心に置く  
本人の強み・心の糧・役割を見つける  
周囲の人と一緒に本人の意思や希望を聴く

# 「相談者から見た地域の状況」をアセスメント

\* 日本社会福祉士会「地域変革のためのヒヤリングシート」を改変

- フォーマルサービスの「利用者」としてでなく、地域で暮らす「生活者」として捉え直してみる。
- 生活者の目線で、地域を眺めてみる。
  - \* 社会資源マップ(地域全体の把握)→「相談者本人にとっての地域」の把握
- 「どんな団体があるか？どんな人がいるか？」  
「もう少し〇〇となるにはどうすればよいか？」  
→どこに(誰に)どう働きかけるか？
- 本人が「支える」立場になるとしたら…
- 「心の糧」＝「隠れた資源(本人を元気にさせているもの)」
- 支援のアイデアに！地域づくりのアイデアに！

# Bさんの場合

## 1. 家族・親族

続柄	関係のよい(強い)理由または関係改善の条件
姉	唯一がBさんが連絡を取る家族。姉家族のような家庭にあこがれている。
姪	お土産やお年玉を渡すことがBさんの働くモチベーションとなっている。

## 2. 知人・友人

関係	関係のよい(強い)理由または関係改善の条件
当事者団体で知り合ったYくん	分からないことを聞ける相手。Bさんは、もっと会って話がしたいと思っている。
Zさん(交際相手)	Zさんに仕事を辞めてもらい、結婚したいと思っている。

### 3. 地域資源(インフォーマルサービス)

組織・グループ名	関係のよい(強い)理由または関係改善の条件
ソフトボールチーム 〇〇レッズ	大好きな野球ができる機会だが、練習はたまにしか行かない。本当は試合に先発出場したい。
ボラグループ キャロットクラブ	Bさんにとっては、活動が異性と話せる場となっているが、数か月に1度程度の参加である。
Fマート〇〇店	「店長が優しい」と気に入っている。
携帯ショップ 〇〇店	一度、料金プランを見直してもらい、支払いが減ってから気に入っている。新機種を見に行く。
スーパー□□ 〇〇店(職場)	一番長く続いている職場だが、店長が交代してから体調不良による早退が目立ち、話し合いが必要。面倒見のよいパートさんがいる。

## 4. 社会資源(フォーマルサービス)

機関・団体名	関係のよい(強い)理由または関係改善の条件
〇〇ヘルパー ステーション	Bさんにも役割を求めるヘルパーのことを嫌い、何度か交代してもらっている。
◇◇区福祉課	窓口で一度職員とモメてから、行きたがらない。福祉パスなど、必要性の高い手続きには行く。
〇〇クリニック	症状が上手く伝わるようになると、定期通院できそう。
保佐人(Pさん)	信頼しているが、所持金が不足するとモメる。

## 5. 本人は地域にとってどんな資源となり得るか？

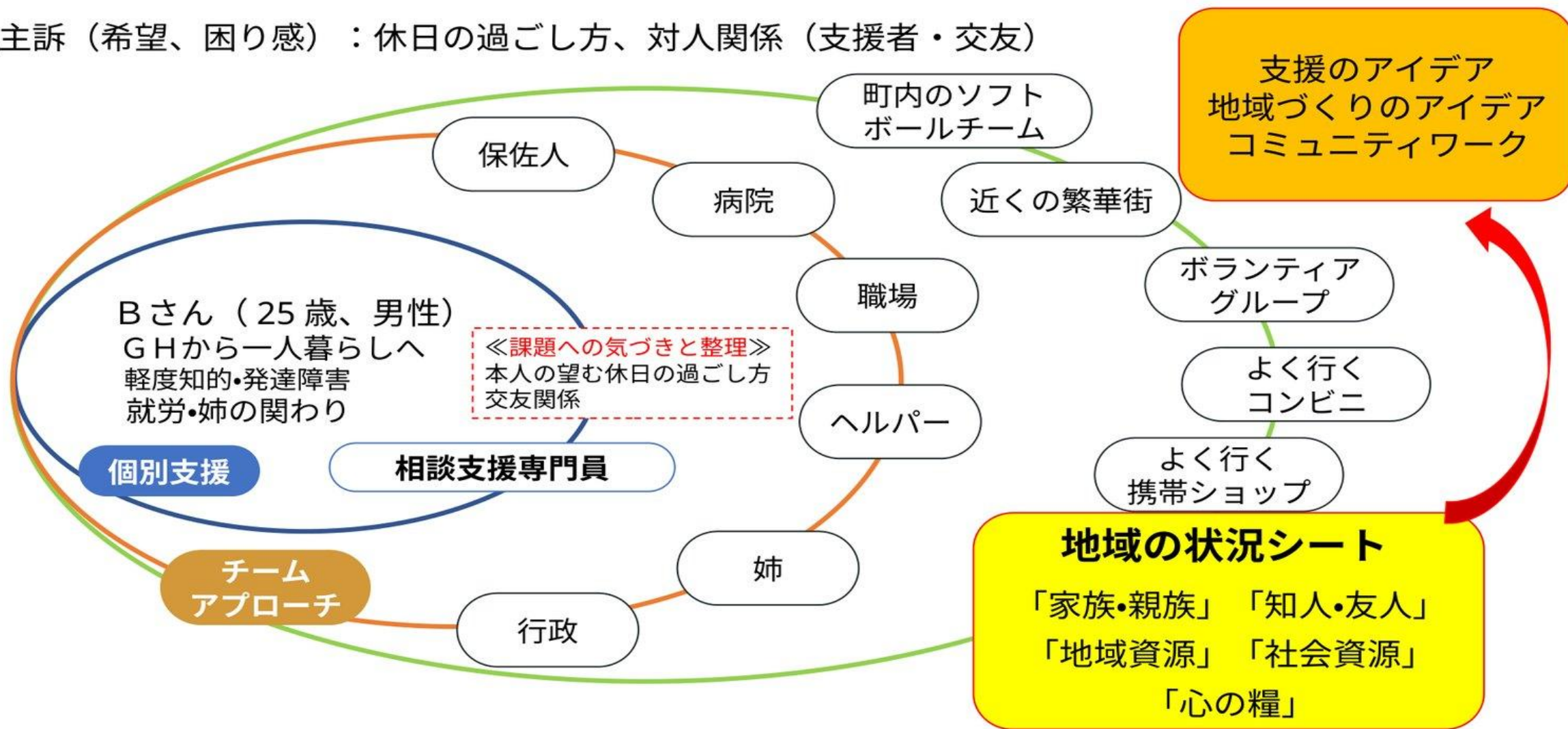
障害があっても地域チームでレギュラーになれることを当事者やチームに証明

## 6. 心の糧

野球(中日ドラゴンズ)、サッカー(名古屋グランパス)、  
スマホ、オゴること

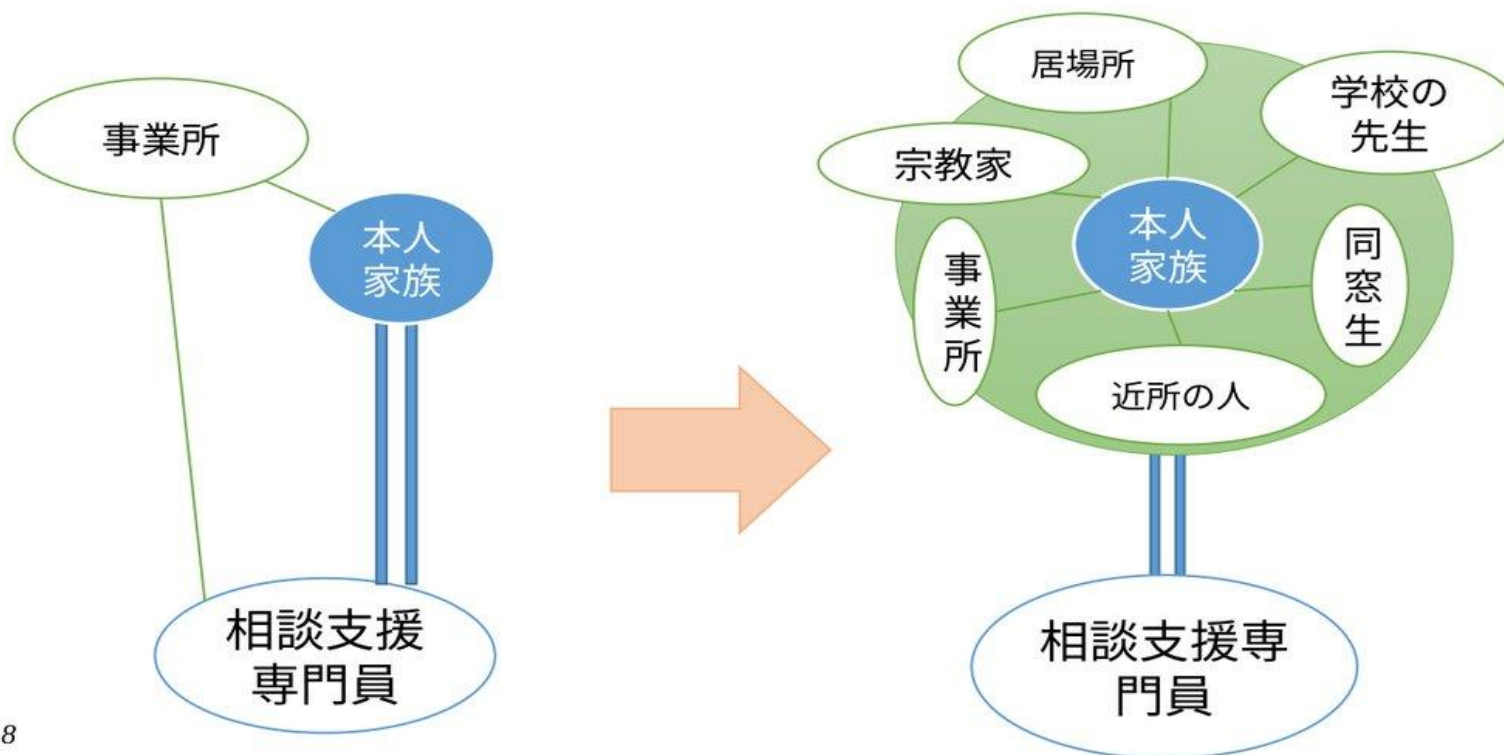
## 事例2：一人暮らしを始めた方の余暇支援

主訴（希望、困り感）：休日の過ごし方、対人関係（支援者・交友）



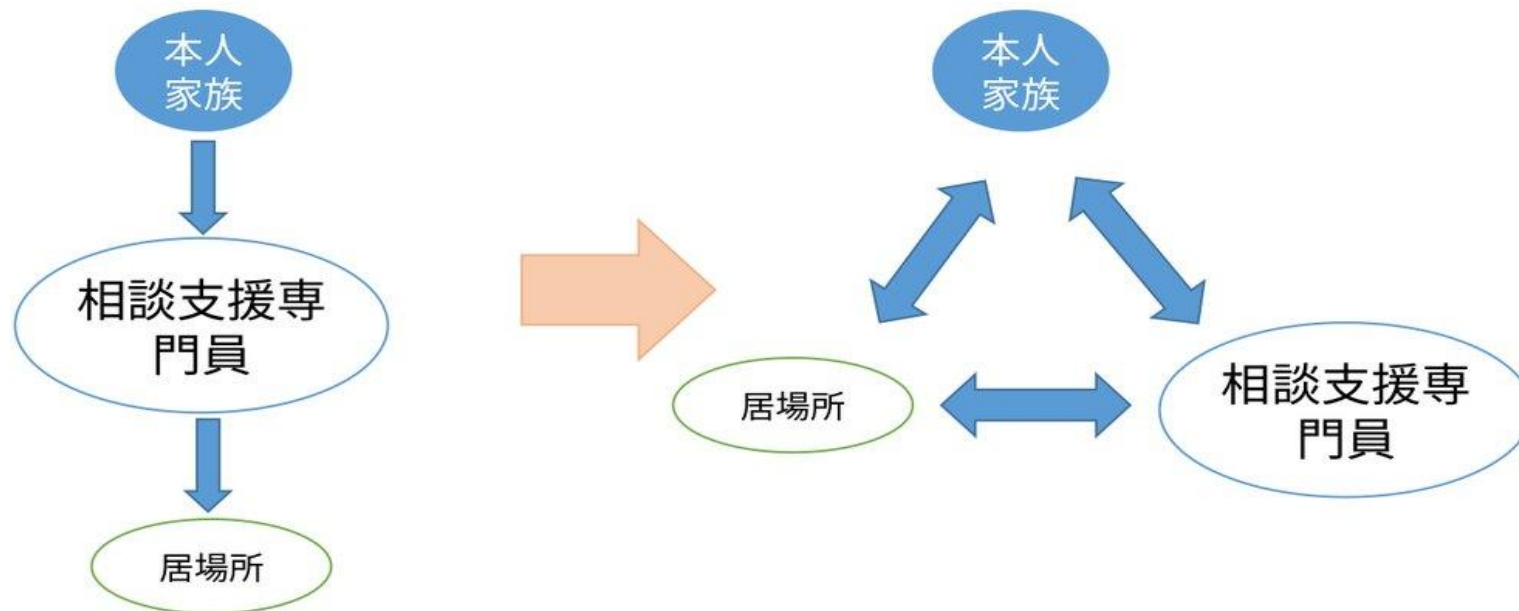
## 関わり方を変えていく

本人や事業所との直接的なやり取りだけでなく、  
周辺にいる人や関わる機関と本人の関係をみてみる。



# 話し合いを変えていく

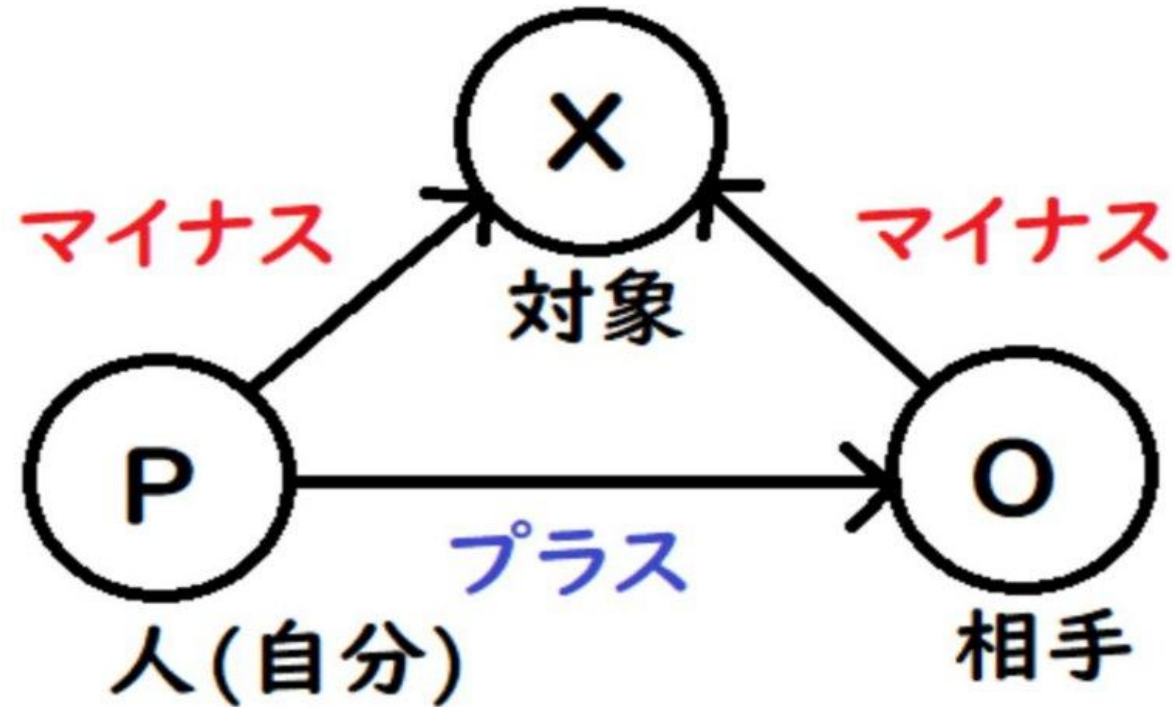
本人の意思や希望を相談支援専門員だけでなく周囲の人々も交えて聴いていく



## 【バランス理論】

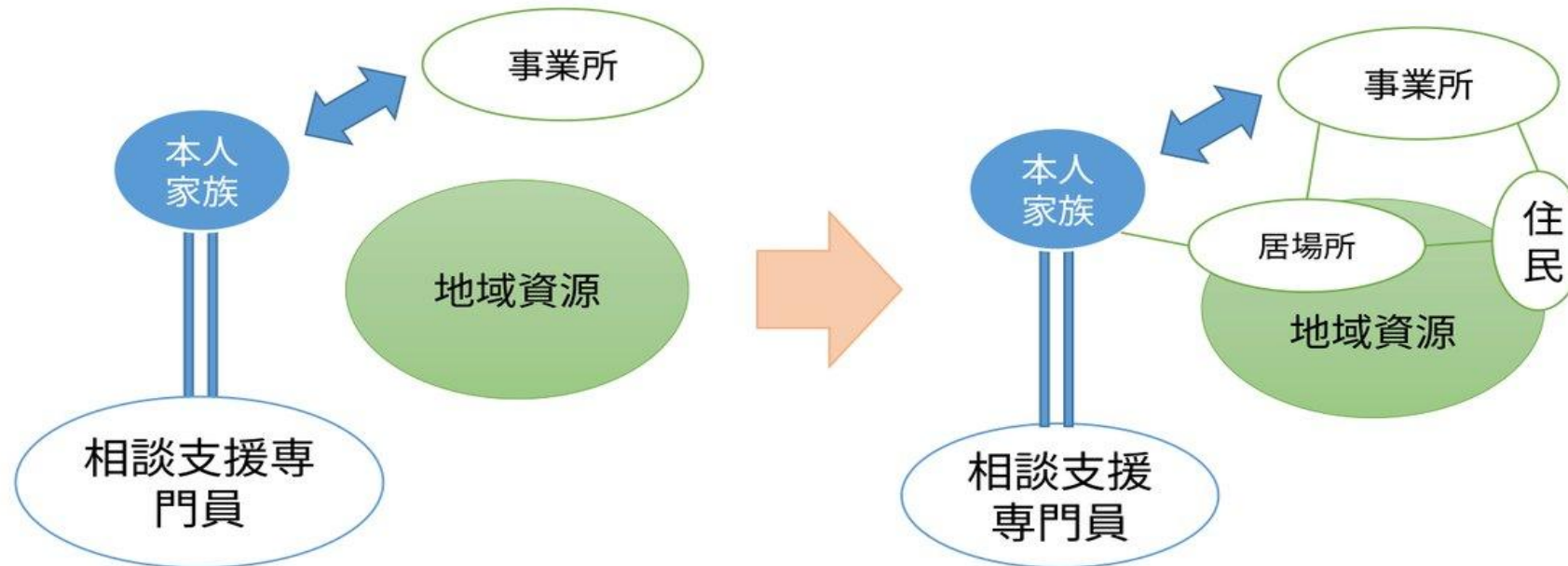
アメリカの心理学者であるフリッツ・ハイダー氏によって提唱された、対人関係に関する理論の1つです。バランス理論では、

『人(P)と相手(O)と対象物(X)それぞれの関係によって、人と相手の関係のバランスが取れているか否かが決まる』とされています。



使う資源を変えていく

いつも使っているサービスに一つ工夫を入れて、地域との接点を増やしていく



## 「地域への働きかけ」の例

### □ 医療的ケアが必要なAさん

子育てサロン

経験豊富なサポーター  
(ボランティア)

看護職による技術的支援  
(現場研修等)

地域単独の加算制度創設等

事業所(通所・移動等)の支援拡大、看護職配置等

知っている人を増やす⇔アイデア、サポートの増

児童部会に子育てサロンも来てもらおうか？

ヘルパーと看護職の意見交換ができる機会を…

### □ 一人暮らしを始めたBさん

町内のソフト  
ボールチーム

近くの繁華街

ボランティア  
グループ

よく行く  
コンビニ

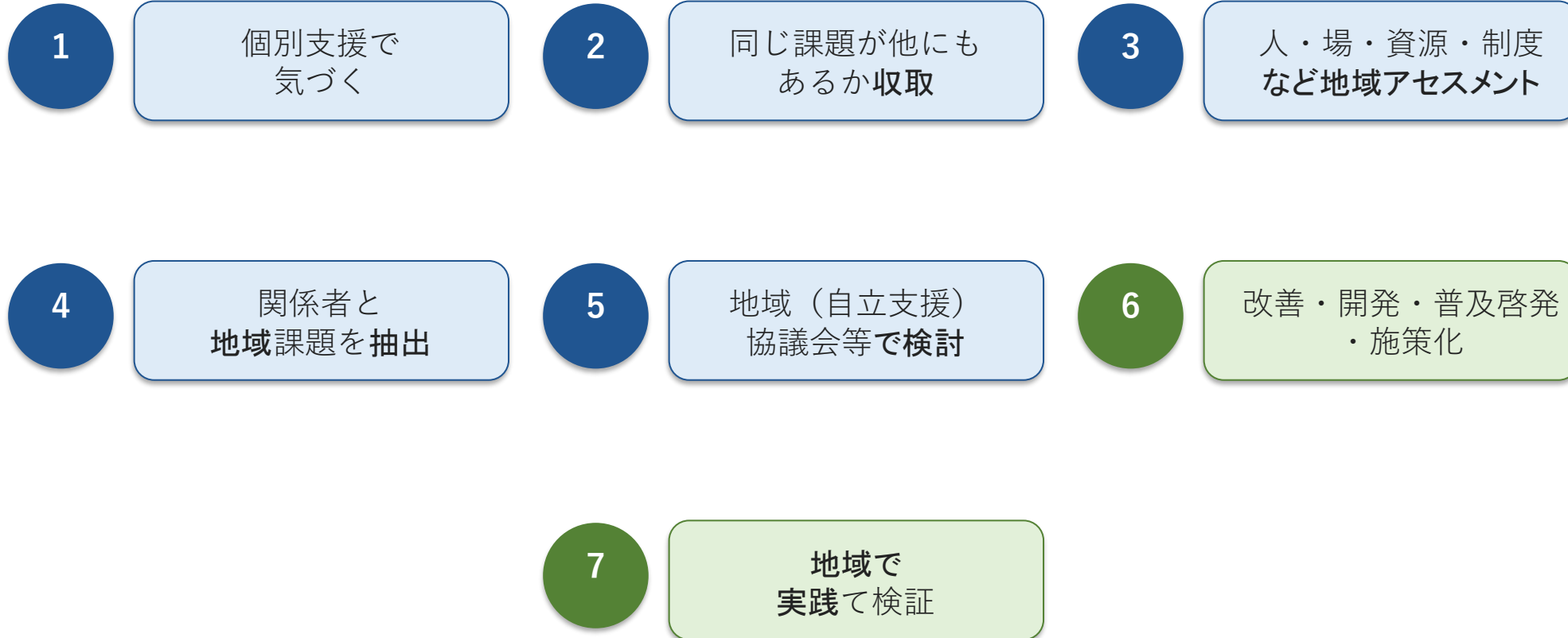
よく行く  
携帯ショップ

当事者部会で、スマホの使い方講座やろうか！

ソフトボール教室やると、大会に出る事業所が喜ぶかも！  
Bさんもサポート役で！

# 地域アセスメントから資源開発までの7ステップ

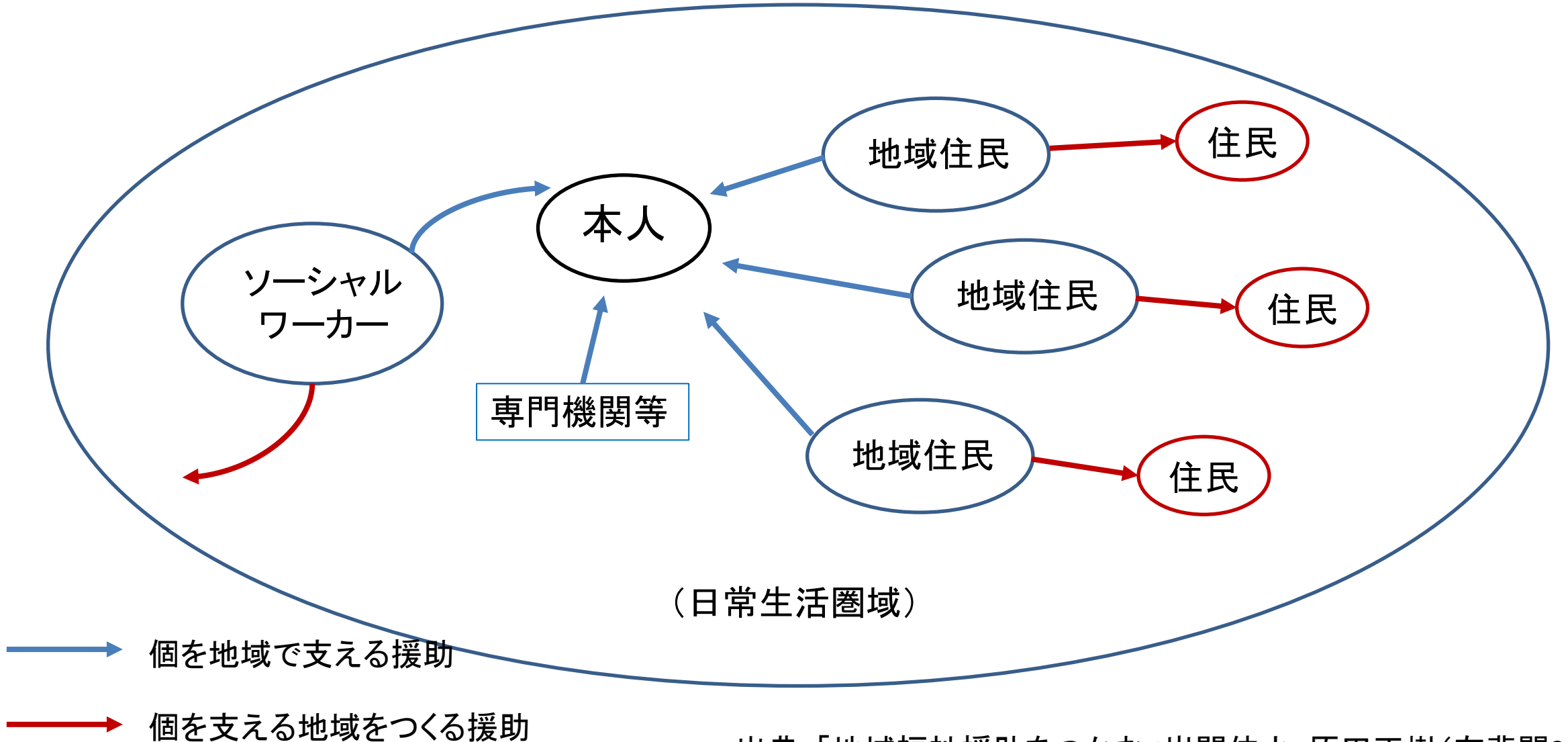
事例を地域づくりへ展開するための手順



大切なのは「地域課題を見つけて終わり」ではなく、  
本人の暮らしの変化・地域の仕組みの変化まで確認すること。

# 個と地域の一体的支援

(「一つの事例が地域を変える」積極的アプローチ)



出典：「地域福祉援助をつかむ」岩間伸之・原田正樹（有斐閣2012）

## 地域を基盤としたソーシャルワークの特質

- 本人の生活の場で展開する援助
- 援助対象の拡大
- 予防的かつ積極的アプローチ
- ネットワークによる連携と協働

出所：岩間伸之（2011）「地域を基盤としたソーシャルワークの特質と機能」『ソーシャルワーク研究』37（1）

## 2. 自立支援協議会の機能と役割

地域を基盤としたソーシャルワークを展開する協議の場



# 事例1：医療的ケアの必要な方への支援

平成30年度神奈川県現任研修資料 改変

主訴（希望、困り感）：Aさんの余暇、社会参加、家族（母）のレスパイト

対象拡大

コミュニティワーク

《課題への気づきと整理》  
余暇、社会経験の拡大、  
レスパイトの課題

地域診断、支援・資源の検討、普及啓発

子育てサロン

経験豊富なサポーター  
(ボランティア)

看護職による技術的支援  
(現場研修等)

事業所(通所・移動等)の支援拡大、  
看護職配置等

知っている人を増やす⇔アイデア、  
サポートの増

地域単独の加算制度創設等

Aさん(10歳、男児)  
両親との3人暮らし  
重心(経管栄養、吸引必要)  
家庭・学校・病院中心

相談支援専門員

チーム  
アプローチ

学校

病院

訪問看護

ヘルパー

放デイ

行政

# コミュニティワークの役割に当てはめて 例：権利擁護部会の取り組み

差別解消・虐待防止の当事者  
研修  
去年はモデル的に3か所  
みんなでパワポを作って、  
みんなで研修の実施



差別解消を進めるために。  
エールチケットを活用して、合理的配慮をしてくれている店舗を出してもらおう。⇒合理的配慮の視点をまとめて、冊子にして配ろう！

差別解消法や虐待防止のことを  
保育園の全保育士、小学校中学校の管理職に知ってもらおう研修を行う。⇒ZOOMで40分弱の研修を実施。

メンバーは、部会長 成年後見センター職員 副部会長は身障当事者 育成会・精神保護者会・身体保護者会・訪問看護・入所施設職員・知的特別支援学校先生・身体特別支援学校職員・相談支援センター職員・行政担当課職員3名



# コミュニティワークの役割に当てはめて 例：権利擁護部会の取り組み



子どもたちに伝えたい身近な地域の誇り（住民）  
×  
誰にでも暮らしやすい配慮（福祉事業所＋障がい者）  
＝  
子どもたちとの街歩き（子どもたち学童の参加）



支え支えられる関係  
地域に暮らすみんなに役割がある。  
ともに活動してみて、ともに意見を交わす場がある。

# 自立支援協議会の運営は、地域の障がいのある方の希望や苦勞を知っている相談支援専門員が肝！



第3期半田市障がい者保健福祉計画に係る取組み案【医療的ケア支援に係る検討会】

【1・計画で掲げた取組み及び数値目標】

第4章5・多様化・高度化する障がい支援への対応  
 (1) 医療的ケアを必要とする方も、地域で安心して生活していくための体制を整備します。

【2・達成するための部会取組み案】

R3	R4	R5
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアが必要な方の近況把握と課題抽出、支援策の協議</li> <li>コーディネーター研修の受講（福祉分野1名）</li> <li>緊急受理会議の開催 （医療的ケア児の出生や転入の情報が入った際に関係機関で地域での生活を支えるための支援を検討）</li> <li>ケース会議の開催 （医療的ケアが必要な方の生活状況が変化した際に関係機関で支援策を検討）</li> <li>災害時の個別避難計画の作成（4名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアが必要な方の近況把握と課題抽出、支援策の協議</li> <li>コーディネーター研修の受講（医療分野1名）</li> <li>緊急受理会議の開催 （医療的ケア児の出生や転入の情報が入った際に関係機関で地域での生活を支えるための支援を検討）</li> <li>ケース会議の開催 （医療的ケアが必要な方の生活状況が変化した際に関係機関で支援策を検討）</li> <li>災害時の個別避難計画の作成（4名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアが必要な方の近況把握と課題抽出、支援策の協議</li> <li>コーディネーター研修の受講（福祉分野1名）</li> <li>緊急受理会議の開催 （医療的ケア児の出生や転入の情報が入った際に関係機関で地域での生活を支えるための支援を検討）</li> <li>ケース会議の開催 （医療的ケアが必要な方の生活状況が変化した際に関係機関で支援策を検討）</li> <li>災害時の個別避難計画の作成（4名）</li> </ul>
<p>課題検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育と教育の保障について協議 （地域の保育園・小中学校での当面の受入体制に係る方針協議）</li> <li>緊急時の受け入れ先について （知多障害保健福祉圏域会議にて協議）</li> </ul>	<p>課題検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育と教育の保障について協議 （地域の保育園・小中学校に在園・在学時に発生した課題等の協議）</li> <li>緊急時の受け入れ先について （知多障害保健福祉圏域会議にて協議）</li> </ul>	<p>課題検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の受け入れ先について （知多障害保健福祉圏域会議にて協議）</li> </ul>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>居宅訪問型保育の実施</li> <li>居宅訪問型児童発達支援事業の実施</li> <li>看護師派遣事業の実施</li> </ul>	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>居宅訪問型保育の実施</li> <li>居宅訪問型児童発達支援事業の実施</li> <li>看護師派遣事業の実施</li> </ul>	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>居宅訪問型保育の実施</li> <li>居宅訪問型児童発達支援事業の実施</li> <li>看護師派遣事業の実施</li> </ul>

はじめの一步は…

形だけの協議会。意見なんか出ない。⇒先進地へ視察。

2歩目は…

すべての会議に行政・基幹委託・事業所等のコアメンバーを決めて各部会等を動かすエンジンを設置

3歩目は…

運営会議で相談から上がってくる課題を提出。どこの部会でこの課題を検討するかを割り振り。

4歩目は…

活性化に影が…再度視察して、ワークショップや一緒に行動する機会を増やし、再活性化。

5歩目は…

部会等の年間計画を作成して、目的とアウトプットを見える化してきたけれど。。。施策や予算に結び付けていくために障害者計画の作成を部会ごとで検討し、課題と実施していくプロセスを一緒に考える⇒一緒に考えるとみんなが計画を達成するために動く

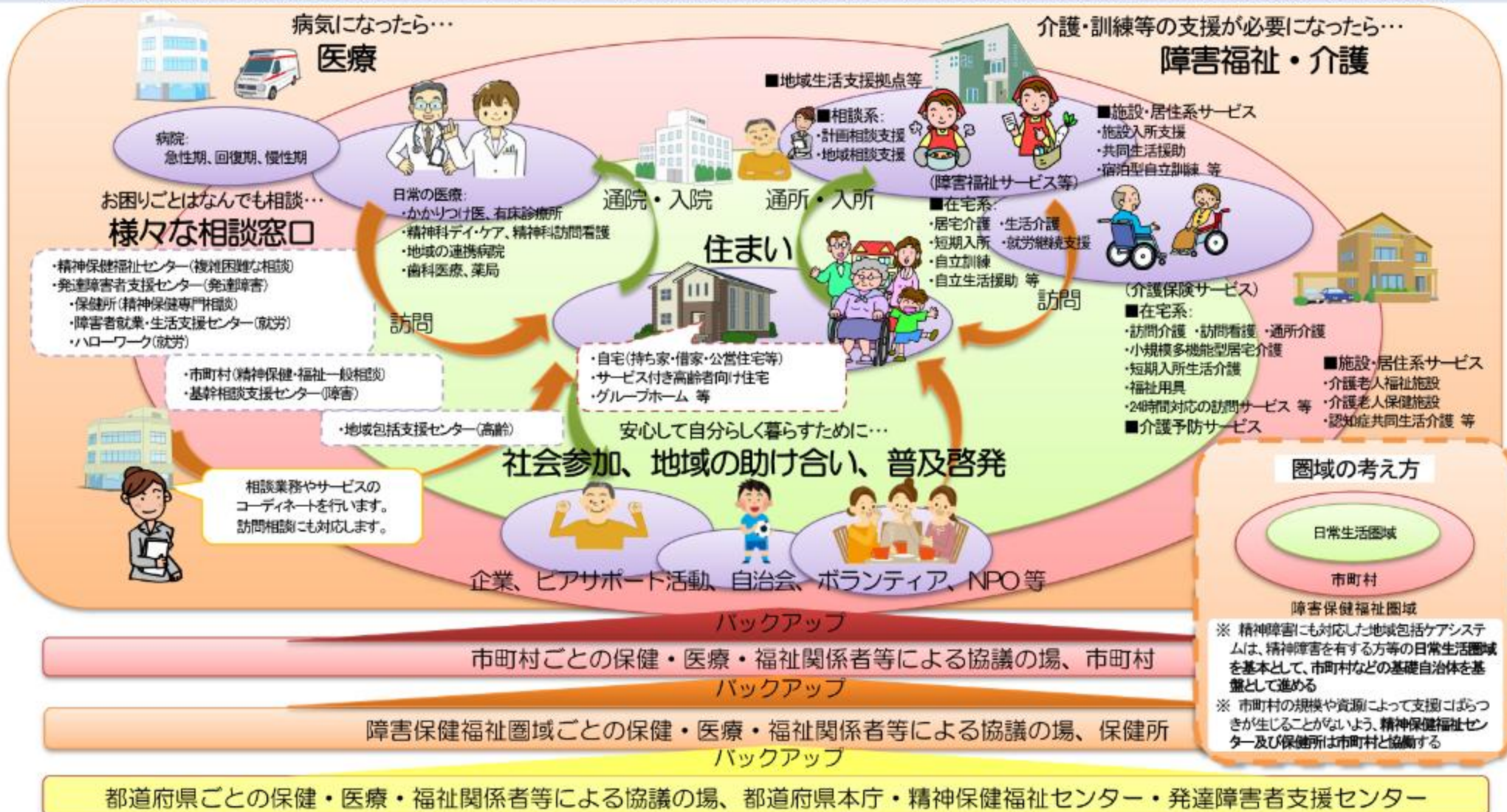
### 3. 地域アセスメントとその活用

地域の他法・他政策を知り、  
つながることでネットワークをつくる。

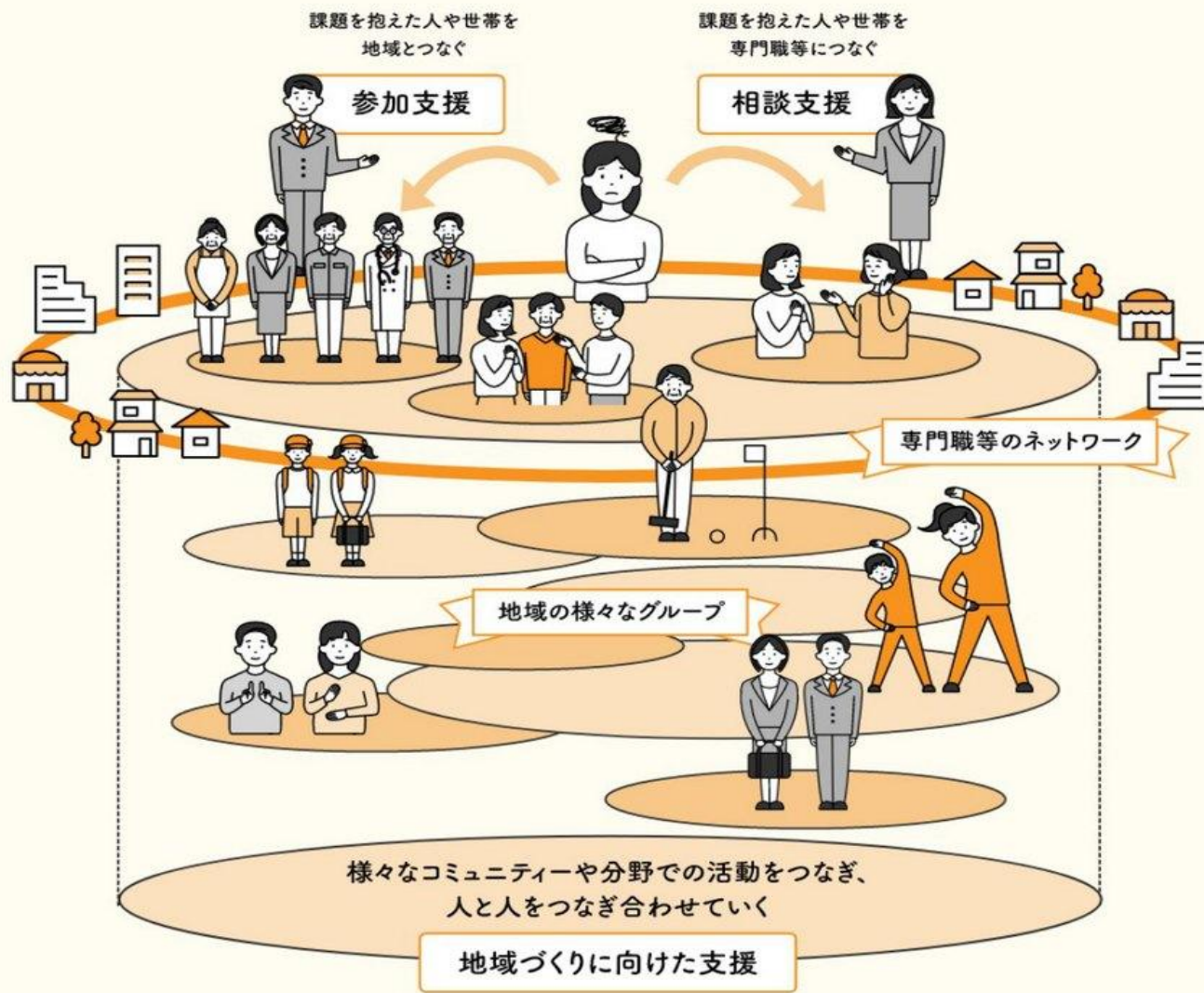


# 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）

- 精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労など）、地域の助け合い、普及啓発（教育など）が包括的に確保された精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指す必要があり、同システムは地域共生社会の実現に向かっていく上では欠かせないものである。
- このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神障害の有無や程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、市町村ごとの保健・医療・福祉関係者等による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、当事者・ピアサポーター、家族、居住支援関係者などとの重層的な連携による支援体制を構築していくことが必要。



市町村全体がチームになり、3つの支援を一体的に実現する



## 【重層的支援体制整備事業】

地域共生社会の実現を目指すための体制整備事業として、

- 「属性を問わない相談支援」
- 「参加支援」
- 「地域づくりに向けた支援」

# 令和8年度に押さえておきたい制度動向

## 地域共生社会・重層的支援体制

属性を問わない相談支援、参加支援、地域づくりを一体的に考える

## 基幹相談支援センターの機能強化

相談支援体制の中核、人材育成、困難事例支援、地域づくりの推進

## 地域生活支援拠点等

緊急時対応、体験の機会、専門的人材の確保、地域体制づくりと接続

## 地域（自立支援）協議会の実効性

報告の場に留めず、個別課題→地域課題→資源改善・開発→障害福祉計画へつなぐ

## 障害福祉計画・施策化

協議会で見えた課題を、計画・予算・事業設計に反映させる

**相談支援専門員は、本人の希望を起点に、  
官民共同で地域の支援体制そのものを育てる実践者である。**

## 自分の地域・担当ケースに引き寄せて、次の5点を整理する。

- ① 個別課題に見えているが、地域課題でもあるものは何か。
- ② 本人の希望を実現するために、地域の誰・どこ・何とつながるか。
- ③ その課題を、どの部会・協議の場に持ち込めるか。
- ④ 資源の改善・開発・普及啓発・施策化のどれが必要か。
- ⑤ 明日から自分ができる一歩は何か。

**キーワード：一人の問題を、皆の問題として考える。**

# 参考資料

改訂時に参照した現任研修・地域づくり関連資料

中央法規出版「相談支援従事者現任研修テキスト」地域を基盤としたソーシャルワーク関連項目  
国立障害者リハビリテーション学院 令和7年度 相談支援従事者指導者養成研修資料：地域づくりコース  
令和3年度 相談支援従事者指導者養成研修「地域づくりと地域援助技術」  
障害者総合支援法に基づく相談支援体制、地域（自立支援）協議会、地域生活支援拠点等に関する国資料  
岩間伸之・原田正樹『地域福祉援助をつかむ』有斐閣 ほか